



【フィールドワーク】 水生生物生息調査活動



【実習】 同定作業に難航

▼活動の目的

水生生物の概要と生態について、実際のフィールドに出て実物を観察することで理解を深める。

水生生物の採取により、幌別川の水質や河川の状態を把握する。

上記を通じて、鉾山地区の自然知識の深度化と技術を習得する。

また、学んだことをガイドとして実際にどのように伝えるか企画づくりを行い、行動へつなげる足がかりとする。

▼活動の内容

1日目

水生生物の概要と生態

水生生物採取および水質調査

(pH値の測定)

採取種整理・種の同定作業と指標水生生物

による水質の判定

こうもりの観察

(捕食活動から見る河川の生態系)

2日目

1日目に学んだことを素材にプログラムづくり(グループ作業)

作成したプログラムをグループ毎に実演し、共有を図る。

▼活動の効果

- 専門家による質の高い情報提供より、水生生物(特に水生昆虫)について参加者の理解が深まり、寡占を使った自然体験やガイディングとして十分に活用し得る知識を得られた。
- 今後、指標生物採取などによる水質調査を継続的に行なうためにも、水性生物の調査手法について技術を習得することができた。また、今回の講座を機に、定期的な水質調査などへの取り組みを行なう担い手が誕生した。
- 指標生物などの採取により、幌別来馬川(鉾山地区)の水質、河川環境について把握することができた。

▼苦勞した点・反省点

- より精度の高い状況把握をするためにも多様な科学的データ(たとえばBOD・COD値など)の測定などが行えなかった。今後実験機材なども充実させ、情報を蓄積していきたい。
- 2日目のプログラムの演習は時間が少なかったため、十分には発表する時間が取れなかった。
- 水生生物を採取する方法など、現地で様々な手法が提案されたので、急遽備品などの購入が必要となった。